

U14年代におけるドイツと日本の違い

日本のサッカー



●精度にこだわる

【パス】付け足、強弱

【シュート】コースに狙う、タイミングをずらす

●組織力

【守備】

守備のスイッチの入れ方。スイッチが入ったら全員でボールを奪いに行く。そのため、守備→攻撃への移行がスムーズで人数もかけられる。

【ポゼッション】

ボールを繋ぐこと＝マイボールを大切に攻撃のチャンスをつくる。攻撃の枚数を増やすための時間作り。

●感じたこと

足の長さが違うため、並走やボールコンタクトの時は、負けてしまう。ただ受ける前の情報量が多いことやボールを持つ判断、離す判断ができることなどフィジカルやパワーで勝てない分、技術でそれをカバーすることができていた。

また、守備では個の能力で勝てないから組織で守るという受身の発想ではなく、自分たちがアクションを起こして守備をするために、取りどころを明確にし、攻守の切り替えで優位に立つための戦術で勝負した。

特に、予測をし、局面が数的不利になったとしても慌てず対応できる選手が数多くいたため戦術練習をたくさんしなくても組織として守備をすることができた。

ドイツのサッカー



●フィジカルとパワー

単純勝負にこだわる。

コントロールで意図的に相手を引きつれたり、数的優位を作るための時間作りは苦手。ボールを受ける前の駆け引きも一切なし。ただ、DF+GKゾーンのビルドアップは上手だった。

●個の能力でポジションを決める

ボールの飛距離は男子高校生並み。

ドリブラーはサイド。周りを見て状況判断できる選手は中盤。体が大きい選手はDF。

自分の得意なことを最大限発揮できる配置。日本みたいにオールラウンダーが少ない。

ただ、個の突破力は飛びぬけている。

●ドイツ人コーチより

日本人は速い。ボールを受けてから判断するまでが速く正確であった。

